

(別紙様式1)

平成26年度「岐阜県ふるさと教育週間」実施報告書

学 校 名	瑞穂市立中小学校		
実 施 期 間	平成26年10月28日(火)・11月21日(金)		
実 施 概 要	保護者と共に農業体験、調理実習		
実 施 内 容	学習・取組の分野 <input checked="" type="checkbox"/> 自然 <input type="checkbox"/> 歴史 <input type="checkbox"/> 文化 <input checked="" type="checkbox"/> 産業 <input type="checkbox"/> その他		
	公開の方法 <input type="checkbox"/> 授業公開 <input checked="" type="checkbox"/> 成果発表 <input checked="" type="checkbox"/> 交流活動 <input type="checkbox"/> 講演会等 <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事等参加 <input type="checkbox"/> その他		
来 校 者 数 実 施 状 況	保 護 者	34人	計 39人
	地域関係者	5人	
<p>○本校の伝統である「アイガモ農法」による米作りに、5年生児童が、地域の指導者及び協力者、保護者と共に取り組んだ。化学肥料や農薬を使わず米を育てることが、米を食する私たちにも、ふるさとの自然環境にも有益であることから「アイガモ農法」を行っている。 この活動は、中小校区での地域活動にとどまらず、瑞穂市の「みずほ環境資源組合」の補助金事業「農村環境保全活動」として活動報告も行っている。</p> <p>5月 <籾蒔き>地域指導者の林さんの指導で籾蒔きを実施。種もみは、蒔く1週間前くらいから水にひたしておき、児童全員が各自苗用パレットに種籾を蒔いた。</p> <p>6月 <ひなの飼育>アイガモのひなを学校の飼育小屋で育てる。ひなは寒さに弱くこの時期にも温度管理が欠かせない。</p> <p><田植え>地域指導者や地域ボランティアの方、保護者と共に田植えを行った。泥に足を取られながらも、自分たちが種から育てた苗を丁寧に植えることができた。</p> <p><放鳥>植えた苗がアイガモに食べられない程度に生長した時期を見て、水田にアイガモを放鳥した。動物や盗難などの被害からアイガモを守るために夕方、小屋に入れ、朝に小屋から出す、という大変な世話が毎日必要であるが、親子ボランティアの協力で夏休みの世話も無事に続けられた。</p>			



10月28日

<稲刈り>林さん、保護者と共に鎌を持ち、稲刈りを行った。アイガモのフンが肥料になり、稲が太く強く育っていること、アイガモが毎日ついでに雑草がほとんど生えていないことなど、アイガモ農法のよさを再確認しながら、一株ずつ鎌で刈り取った。刈り取った稲は、林さんを始め、地域の方のご協力で集めた、千歯こきと足踏み脱穀機を使って脱穀した。



11月21日(金)
<おにぎり作り>



本校では各学年で、保護者・教師・児童共に体験活動を行うPTC活動を実施している。5年生では収穫した米でおにぎりを作り試食することをPTC活動として行った。塩だけで握るおにぎりだからこそ、新米のおいしさをかみしめ、米づくりの大変さや収穫の喜びを味わうことができた。

成果及び課題

<保護者>日頃はなかなか子どもたちと一緒に料理をすることができないので他の親さんや他の子どもたちとも一緒におにぎり作りができてとても楽しかった。アイガモ農法はとても大変そうだったが、だからこそ今日こうしておいしくいただけました。夏休みに親子でアイガモの世話をしたのもとてもよい体験となった。

<児童>夏休みに一緒にアイガモの世話をしてくれたお母さん達とおにぎりを作って食べることでよかったです。アイガモ農法はとても大変だったけど林さんや地域の方、お母さん達に支えられてやりとげることができて感謝しています。

<成果>アイガモ農法を通して勤労の貴さを体感するとともに地域や環境について考えを深めることができた。また、指導者を始め地域のボランティアの方々とふれあい、尊敬や感謝の念を育てることができた。

<課題>アイガモ農法は大変な労力を要し、単学級での活動は担任の負担が大きいこと、指導者が高齢であり、今後も継続して指導していただけるか不確定である。指導者の引き継ぎと、地域ボランティアの組織化が課題である。